

第1回地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）延伸協議会

まちづくり分科会 議事録

○日 時：平成29年11月6日（月）10：00～11：40

○場 所：大宮区役所 本館6階 大会議室

○出席者

【委員】（敬称略）

分科会長 久保田 尚：埼玉大学大学院教授 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門

瀬田 史彦：東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻 准教授

山下 智史：（株）JTB関東 地域交流グローバルチーム担当マネージャー
観光開発プロデューサー

吉田 育代：（株）日本経済研究所 調査本部 上席研究主幹

山崎 明弘：埼玉県 企画財政部 地域政策局長

岡崎 繁：さいたま市 都市戦略本部 理事

○欠席者

なし

○議題及び公開又は非公開の別

（議題）

（1）報告事項

第1回地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）延伸協議会の意見のまとめについて

（2）協議事項

① 浦和美園～岩槻地域のまちづくりについて

② 将来人口の推計について

（公開・非公開の別）

公開

○傍聴者数 2人

○審議した内容

① 浦和美園～岩槻地域のまちづくりについて

② 将来人口の推計について

1. 開会

〈司会〉

本協議会は公開を原則とするため、報道関係者・傍聴者ありということについて御了承頂きたい。

2. 議事

(1) 報告事項

〈事務局〉

(資料1 1. 地下鉄7号線の意義・必要性について、2. 概算建設費について
まとめて説明)

(意見なし)

(2) 協議事項

① 浦和美園～岩槻地域のまちづくりについて

〈事務局〉

(資料2 1. 浦和美園～岩槻地域のまちづくりについて について説明)

〈山下委員〉

11月3日に開催された「第5回城下町岩槻鷹狩り行列」や「人形のまち岩槻 人形供養祭」に参加して感じたこととして、まちを盛り上げるために地域住民が「まちの戦略会議」などの組織をつくり、お互いに協力しあうことで、多くの来場者を集め、盛り上がっていると感じた。

一方で、全国の観光地において起きている状況と類似するが、まだまだ上手く情報発信ができていないということと、来場者については年配の方が多いという印象を受けた。

これからの観光まちづくりとして、地域住民が自ら楽しむ、自主的に取り組んでいく事が非常に大切だと考える。岩槻では、これまでは地域住民があまり盛り上がっていなかったかもしれないが、今まさに動き出しているところをみると、交流人口をこれから更に増やせるポテンシャルがあるのではないかと思う。

そのためにも、鉄道を早急に延伸してさらにまちづくりを深め、発展させていくべきであると思う。

〈瀬田委員〉

さいたま市の東部地域の都市構造、そして多核ネットワークを完成させるためには、岩槻駅周辺地区と中間駅周辺地区を開発する必要があると思う。現状では、大宮と浦和を繋ぐ軸の方がはるかに強くなっており、その軸から枝葉のように伸びて

いくような構造になりかねない。

現在の浦和美園～岩槻地域成長・発展プランは、岩槻駅周辺地区と中間駅周辺地区について、「地域資源を生かした交流」などの観光についての目標は多いが、「まちの基盤整備」「地域内の移動」「将来に向けた検討」についても強化をしてもよいと思う。

「訪れて良し」だけではなく、「今住んでいる人が幸せに暮らせる」、「外の人に移り住んでもらう」ために成長・発展プランを進めているということ、強く押し出すべきなのではないかと思う。

イベントの開催に関連した形で、定住人口を増やし、鉄道を利用してもらうために、岩槻駅周辺地区や中間駅周辺地区に住むことが幸せであるということ、しっかり目標として位置付けるのが大切ではないか。

定住人口を伸ばすということは一筋縄ではいかないと思うが、岩槻駅周辺地区及び中間駅周辺地区の定住者のターゲットを絞った目標設定を明確にするのがいいのではないかと思う。

〈事務局〉

岩槻駅周辺のイベントの情報発信については、幅広い年代層の人に来てもらえるように情報発信の工夫を検討していきたい。

また、岩槻駅周辺地区に住んでみたいと思ってもらえるような魅力を発信することで定住人口の増加につなげていきたいと考えている。

〈吉田委員〉

定住・交流人口のターゲットをどう考えているのかということが見えにくい。例えば、浦和美園であればファミリー層が多く住んでいるという話だが、定住人口であればどこをターゲットにおいていきたいのか。

また、地下鉄7号線沿線には大学が非常に多いことから、学生を浦和美園に呼び込む為にはどういった仕掛けをしていけば良いだろうか等ということを念頭に置きながら、プランを見直していくということも考えられる。

浦和美園でも岩槻でも、定住にしろ交流にしろ、ターゲット層を絞りメッセージ性を強く持って行くということが必要だと思う。

〈岡崎委員〉

浦和美園では「UDCMi」を先頭にして、地域住民同士のコミュニケーションや様々なソフト事業が展開されている。岩槻では、「まちの戦略会議」などの組織が立ち上がり活動を始めた。これからは、いかに地域住民と行政が協力してまちづくりを進めていく仕組みを構築するのかという議論を深めていくべきであると思う。

〈久保田分科会長〉

岩槻駅周辺地区については課題とやるべき事がわかってきたが、中間駅周辺地区については、今後どのようにしていくのかがわかりにくい。中間駅周辺地区はどう整備していくのか、事務局の意見を聞きたい。

〈事務局〉

中間駅周辺地区については、平成23年度に検討された6パターンのまちづくり構想を基に、今後の社会情勢や国や県の動向を見ながら、まちづくり構想について調査、研究していく。

市街化調整区域でもあることから、直ちにまちづくりの着手はできないと考えているが、現状の中で出来ることから行っていきたい。

〈久保田分科会長〉

本協議会では、中間駅周辺地区はどういう前提で意見を取りまとめればよいのか。

〈事務局〉

今後、平成23年度に検討されたまちづくり構想を再検討していきます。

〈久保田分科会長〉

中間駅周辺地区のまちづくりを議論する上で、平成23年度に検討された6パターンのまちづくり構想のうち、どの案を前提にすればよいのか。まず、まちづくり構想の内容について説明してもらいたい。

〈事務局〉

6パターンについてはどれかに限定して議論するのではなく、可能性として今のところは全部残しておく考え、また再検討もしていく。

〈久保田分科会長〉

今年度中の意見の取りまとめとして、中間駅周辺地区のまちづくりの方向性を確定させるのか、もしくは、今後も調査・研究が必要という取りまとめとするのか。

〈事務局〉

基本的には、協議会の意見を踏まえて、さらに調査・研究を進めていく考えである。

〈瀬田委員〉

そうすると、中間駅周辺地区のまちづくりの方針について、本協議会においていく

つか選択肢を提示し、それを今後選択し調査・研究していくというようなことでも良いのか。

〈事務局〉

そのように考えている。

〈岡崎委員〉

中間駅周辺地区は、岩槻と浦和美園の地域特性に挟まれた中で、どうあるべきかを検討する必要がある。現時点において、直ちに6パターンの中からベストを絞り込むことはできないかもしれないが、岩槻と浦和美園の地域特性を分析したうえで、どのキーワードを取り上げて議論していくのがいいのか、推奨できるパターンを提示することは出来るのではないかと考えている。

〈久保田分科会長〉

まちづくり分科会の役割は非常に大きいということですね。

〈瀬田委員〉

中間駅周辺のまちづくりの開発パターンⅡ型とⅢ型を比較すると、定着人口にかなり差があるが、鉄道利用者推計の最大値は約1,200人と同じである。そのあたりの数値やまちづくりの考え方などについて教えてもらいたい。

〈事務局〉

後日確認して報告する。

〈久保田分科会長〉

次回のまちづくり分科会では中間駅周辺地区の望ましい位置付けについて議論することをお願いしたい。

〈岡崎委員〉

瀬田委員のご質問ですが、Ⅱ型は商業系中心のまちづくりのため、立地の産業系業種により鉄道利用者数が左右される。また、Ⅲ型は住宅系と産業系の複合であり、一定数見込めるといったところが特徴といえる。まちづくり分科会では、中間駅周辺地区の方向性について、あらゆる可能性も含め委員の知見の中で議論をするのが良いかと思う。

〈久保田分科会長〉

まちづくり分科会では、都市計画マスタープラン等を考慮しなくても良いということか。

〈岡崎委員〉

中間駅周辺のまちづくりは、鉄道着手にあわせたまちづくりであることから、ここでの議論では考慮しなくても良いと思う。

〈山崎委員〉

交通政策審議会答申において事業性に課題があると指摘されており、事業性の確保に必要な需要の確保の創出につながる沿線開発が求められている。浦和美園～岩槻地域のあるべき姿を検討するというのも大切だが、どうすれば需要の創出が出来るかということ議論しないと、いつまでたっても答申に対する答えが出ないのではないか。

また、これまでさいたま市の中で都市計画やまちづくりについて検討されたものがあれば、それを提示してもらえれば良い議論が出来るのではないかと思う。

〈久保田分科会長〉

私の推察するところでは、少なくとも岩槻駅周辺地区についてはこれまで検討されたものがあるはずだが、中間駅周辺地区は市街化調整区域になっていることもあり、さいたま市全体としては議論しにくいという面があるのではないか。

次回、岩槻駅周辺地区についてもさいたま市のプランがあれば、説明してもらいたい。

また、埼玉スタジアム駅の常設化にかかるコストや、常設化することでどれくらいの高校生の需要が見込まれるかということについても次回説明してもらえるのか。

〈事務局〉

埼玉スタジアム駅の常設化によって高校生の需要がどれほどあるかについては、後日確認しデータがあるようであれば、提示したい。

また、常設化にかかるコストについては、資料 1-9 にあるとおり、建設費として約 2 億円、運営費として年間約 1 億 3 千万円が必要になる。

〈久保田分科会長〉

まちづくり分科会としては、埼玉スタジアムの常設化について何を議論すればよいのか。

〈事務局〉

高校生に限らず、埼玉スタジアム周辺のまちづくりの進展等も含め、他に見込める需要や、臨時駅から常設化した場合の課題等について、意見を頂きたい。

〈吉田委員〉

埼玉スタジアム駅を常設化するにあたっては、埼玉スタジアムで試合があるときには乗降客が見込めるが、試合がない時にどのように需要を作り出すかということが課題になると考える。

地下鉄7号線沿線に大学が多いならば、大学生たちに埼玉スタジアム駅を平日に使ってもらうことを、ハードソフト両面から検討することも考えられる。

また、将来的に医療機関が立地した場合、どれほどの鉄道需要が想定できるのかといったことを念頭に置きながら埼玉スタジアム駅の需要を考えて、段階的に検討していくという考え方もあるのではないかと思う。

〈瀬田委員〉

常設化することによってかかる建設費や運営費などの内訳等が分かれば示してもらいたい。ホーム自体は仮設でも常設でも必要であるが、将来チケットレスが進むことで、駅員等が徐々に不要となってきたことから、運営費等は多少削減できるのではないかと考えている。そういったことも検討し、多少の費用で常設化できるのであればやるべきであると考えている。

② 将来人口の推計について

〈事務局〉

(資料2 2. 将来人口の推計について について説明)

〈吉田委員〉

さいたま市の総合振興計画後期基本計画の推計値と国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の推計値が、平成42年、52年と進んでいったときに、差が広がっている理由はなにか。

また、ビルドアップ曲線の数値については、浦和美園駅周辺地区で進められている区画整備事業区域内の推計値ということでのよいのか。資料2-2で明確な建築計画を沿線開発に見込むということだが、それはビルドアップ曲線には入っていない、つまり、需要が重複していないと考えていいのか。

最後に、交流人口については埼玉スタジアムの来場者を見込んでいるということだが、それ以外に交流人口としてこういったものを設定して項目として見込んでいるのか。

〈事務局〉

さいたま市の総合振興計画後期基本計画の推計値と社人研の推計値の差が広がっている理由と、ビルドアップ曲線の考え方については、データを精査し後日報告する。交流人口については、埼玉スタジアムの来場者以外に大規模商業施設の来客者等を見込んでいる。

〈山崎委員〉

さいたま市の総合振興計画後期基本計画の推計値はいつ作られた数値か。

〈事務局〉

さいたま市総合振興計画後期基本計画は平成26年4月に策定されており、その中で人口の将来推計をしたものである。

〈山崎委員〉

前回（平成22年）の国勢調査ベースという認識で良いか。

〈事務局〉

そのとおりである。

〈山崎委員〉

さいたま市の総合振興計画後期基本計画の推計値に差分を上乗せするということが、さいたま市の主要な計画でこのような手法で将来の人口推計をされたものはあるのか。

〈事務局〉

まち・ひと・しごと創生法に基づき策定した「さいたま市人口ビジョン」（平成27年11月）がある。このビジョンは出生率などを仮定し、市が将来人口を展望したものである。そのため、鉄道需要予測の将来人口の推計には使用しない。

〈山崎委員〉

今後、最新（平成27年）の国勢調査に基づいてまた推計されるだろうが、対外的に説明する場合、他に根拠があったほうがよいのではないか。この分科会で独自に推計したもので良いのか心配である。

〈久保田分科会長〉

資料2-3にあるように、平成27年の国勢調査の値が推計値を15,000人上回っ

ているが、今後も 15,000 人上乗せしていくという推計の仕方はこれまでやったことがあるのか。

〈事務局〉

この考え方は平成 26 年度に埼玉県とさいたま市で行った地下鉄 7 号線延伸検討会議で同様の手法（上乗せ）で試算を行った。

〈瀬田委員〉

社人研の人口推計と、さいたま市の総合振興計画後期基本計画の推計値との差が広がっているということは、他の条件が同じであるなら、若い人が多く入ってくると将来的に出産等の影響により当初の推計よりも人口の減少具合が鈍ることで、差が広がっているのだと考えられる。

さいたま市の総合振興計画後期基本計画の推計値のパラメーターと同じパターンで推計するとすれば、論理的には「今年度需要予測採用値」というのはさらに上がると想定される。ただ、社会増減というのはパターンが非常に変わりやすい為、少し幅を持たせていくつかの数値で比較するのが良いと思う。

さらに重要なのは、岩槻区の人口が今後どのくらい増えるかということではないかと思う。現在、岩槻区の人口は総合振興計画の推計値と同じ値となっている一方で、緑区や見沼区で人口が予想よりも増えている。その要因をわかる範囲で分析してみるのはいかがでしょうか。

緑区は当然浦和美園駅周辺地区の開発が及ぼした影響が大きいと想定される。見沼区については、東大宮の駅等の利便性が高まっており、その周辺で人口が増えている可能性はある。

例えば、東大宮駅は上野東京ラインが開通したことで利便性が高まり、それによる人口増加が確認できれば、岩槻駅まで延伸され利便性が高まれば人口が増えるということも可能性としてはあると考えられる。

このように、少し幅広に検討していてもよいのではないかと思う。当然、その時何を前提としたかを明示したうえで、比較的高めのケースと厳しめなケースを示すということを、余裕があればやっていただきたい。

〈久保田分科会長〉

将来のことであるから、幅を持った検討を行ってほしいと思う。また、総合振興計画の推計値に上乗せするやり方をやったことがあるとのことで、踏襲してやっていただきたい。

さきほどの吉田委員からの質問については次回、回答をお願いしたい。

他に意見はあるか。

〈山崎委員〉

資料 1-3 にある「成熟期」について、鉄道運営が始まる時点で、中間駅周辺地区が整備中になっているが、駅開業時には整備が終わっているというくらいの意気込みでやっていただきたい。

〈事務局〉

出来る限り早めに整備するということは念頭にいれて検討していきたい。

〈久保田分科会長〉

他に意見があれば。

〈関東地方整備局 建政部 都市整備課 川崎課長〉

中間駅周辺と、埼玉スタジアム駅の周辺をどうするのかということ、仮定でも良いので、どういう開発をしたらどれくらいの人数が乗る、というようなことが必要になると思う。大変だとは思いますが、よろしくお願ひしたい。

〈久保田分科会長〉

私からもよろしくお願ひしたい。

有用な議論になった。今回はこれで終わりとしたい。

〈司会〉

次回の開催予定は以下のとおり。

- ・第2回まちづくり分科会 : 12/26 (火) 10:00~ 大宮区役所 6F 大会議室
- ・(参考) 第1回鉄道分科会 : 11/28 (火) 14:00~ 大宮区役所 6F 大会議室

3. 閉会

○問合せ先 さいたま市 都市戦略本部 東部地域・鉄道戦略部
電話番号 048-829-1871
FAX 048-829-1997